

0歳から18歳までの一貫教育のまち
『おおつち一貫教育推進』かわら版
大槌町は、教育を「つなげる」「ひろげる」まちです。



令和5年5月22日(月) No.9
文責
教育委員会学務課 吉田

・これからの幼保小接続について

これまで幼保小のスムーズな接続のため、幼・保・こども園で入学前の1月から3月までのアプローチカリキュラム、小学校1年生の1学期を中心にスタートカリキュラムが取り組まれてきましたが、今年の2月に、文部科学省が義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間で取り組む「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」を取りまとめました。

0歳から18歳までの一貫教育を掲げる本町でも、『架け橋プログラム』の作成を検討しています。

幼保小のよりスムーズな接続が実現すれば、子供達の成長はもちろん、各学園が目指す教育目標の達成に近づくことができ、最終的には子供達だけでなく、教職員や保護者のウェルビーイングにつながると思います。

4-(1) 架け橋期のカリキュラムについて、園・小学校での具体化の進め方（各フェーズ）のイメージ

フェーズ1 (基盤づくり)

園の教育課程・指導計画



見通してはいるが、別々に検討・作成



小学校の教育課程・指導計画

フェーズ2～4 (検討・開発～改善・発展サイクルの定着)

	0歳～	5歳児	小学校1年生	小学校2年生～
共通の視点として考えられる項目例		4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	
①期待する子供像				
②遊びや学びのプロセス				
③園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等				
④指導上の配慮事項	先生の関わり	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; text-align: center;"> 園長・校長を含む幼保小の先生の協働 「開発会議での方針」の具体化 </div> 		
	環境の構成・環境づくり			
⑤子供の交流				
⑥家庭や地域との連携				

※幼小接続事業「幼小接続研修会」の所感から

- ・定期的に園の先生方と情報交流し、教師同士の目指す園児・児童の姿を共有していくことは、いわゆる小1ギャップを減らしていくための重要な連携であると考えています。なかなか園や学校同士のみで機会を設定するのは難しいので、これからも、このような交流の場を設定していただけるとすごくありがたいな、と思いました。
- ・まず管理職（学園長、園長）が集まって、幼小の接続をどのようにしていくかを詳しく話す機会が早急に必要ではないか。
- ・どうしても担任、担当者がメインになりますが、全職員で共通認識を持たなければならないと感じます。

幼小接続の情報共有・目指す姿を共有することの重要性と管理職同士の協働の必要性、全職員の共理解の大切さを確認できた研修会となりました。